

大村市立旭が丘小学校 英語活動 学習指導要領		平成27年度 作成	
目標	英語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションをしようとする態度の育成を図るとともに、英語を聞いて理解したり、相手に伝わるように話したり文字を活用したりする力を養う。		
各学年の目標	1・2年	3・4年	5年
	(1) ゆっくりと話される英語を話す人を見ながら聞き、大体の内容をつかむようにする。(聞く)	(1) ゆっくり話される英語に興味をもって聞き、大体の内容を理解できるようにする。(聞く)	(1) 興味を持って英語を聞き、相手が伝えようとしていることや話の内容をとらえようとする。(聞く)
	(2) 動作をつけたりゆっくりと発音したりして簡単なゲームを楽しむことができるようにする。(話す)	(2) 動作をつけたりゆっくり発音したりして簡単なやりとりをすることができるようにする。(話す)	(2) 動作や英語の言葉をとらえて、やりとりをすることができるようにする。(聞く・話す)
	(3) 外国の行事を聞いたり学んだ英語を話したりしてゲームをすることができるようにする。	(3) 英語を書いたり、英語でやりとりしたりゲームをしたりすることができるようにする。(聞く・話す・書く)	(3) 英語の単語を読んだり書いたり、ゲームをしたりすることができるようにする。(聞く・話す・読む・書く)
内容	A コミュニケーションへの*関心意欲態度		
	ア 相手と向かい合いコミュニケーションすること	ア 相手と向かい合い笑顔でコミュニケーションすること	ア 相手と動作や表情、短い言葉を使ってコミュニケーションすること
	イ ゆっくりと話される英語を聞いて、英語で答えようとする	イ 先生やALTのゆっくりとした英語を聞き、英語でやりとりすること	イ ゆっくりとした英会話を聞き、英語でやりとりをしようとする
	ウ 自分の名前や好きなものなどについて伝えること	ウ 自分の名前や好きなものなどについて動作をつけて伝えること	ウ 聞き返す言葉や動作を使って、相手とやりとりを楽しもうとすること
	B 外国語への慣れ親しみ		
	ア 相手と英語を使って尋ねたり答えたりすること	ア 相手と英語を使って尋ねたり答えたりすること	ア 相手に自分のことを英語表現を使って伝えること
	イ 英語を交えたルールの説明を聞いてゲームをすること	イ 英語を交えたルールの説明を聞いてゲームをすること	イ ゲームで用いられる英語の言葉を読むこと
	ウ 英語で聞かれたことに対して短い英語で答えようとする	ウ 英語で聞かれたことに対して知っている英語で答えようとする	ウ ゆっくりとした英語の会話や説明を聞いて、短い文で答えようとする
	C 言語や文化に関する気付き		
	ア アルファベット(大文字)をリピートすること	ア アルファベット(小文字)をリピートすること	ア 発音からアルファベットを予想すること
	イ ものの名前をリピートすること	イ アルファベットの大文字を小文字の違いに気付くこと	イ アルファベットの大文字と小文字を使い分けて自分の名前を書くこと
	ウ さまざまな外国の行事に気付くこと	ウ さまざまな外国の行事を知ること	ウ 外国の文化(習慣・言葉・食事・自然など)を知ること
エ	エ アルファベットをなぞったり写したりして書くこと	エ 短い単語(大文字と小文字)をなぞったり写したりして書くこと	
語彙等	数字、月日、曜日、食べ物や飲み物、動物、色やスポーツなどの名詞、基本的な動詞	数字、月日、曜日、食べ物や飲み物、身の周りにある具体物の名詞、長短などの形容詞、いろいろな動詞	建物、国名などの名詞、形容詞+名詞、動詞+副詞などの組み合わせ
指導計画の作成と内容の取り扱い	1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。各学校においては、児童や地域の実態に応じて各学年の目標を適切に定め、6年間を通して英語活動の目標の実現を図るようにすること。		
	2 各学年の内容の指導については、必要に応じて該当学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で程度を高めて取り上げたりして、弾力的に指導できるようにすること。		
	3 内容の取り扱いについては、次の事項に配慮するものとする。児童の実態や教材の内容等に応じて、ALTの協力を得たり、ペアワーク、グループワークなどの学習形態を工夫したりすること。		
	4 各学年の「コミュニケーションへの関心意欲態度」「外国語への慣れ親しみ」「言語や文化に関する気付き」に示す事項については、相互に密接に関連づけて指導する。特に「コミュニケーションへの関心意欲態度」「外国語への慣れ親しみ」に重点を置いて指導し、「言語や文化に関する気付き」は「外国語への慣れ親しみ」をよりよく身につけるために関連づけて指導すること。		
5 教材は、積極的にコミュニケーションをしようとする態度を育成するため、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮したものを取り上げるものとする。その際英語を使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活、風俗習慣、物語、伝統文化や自然科学などに関するものの中から、子どもの発達の段階及び興味・関心に即して適切な教材を変化を持たせて取り上げる。			
6 段階的に多様なものの見方や考え方を理解し、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。外国や我が国の生活や文化についての関心をもたせるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。国際社会に生きる日本人としての自覚を段階的に高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。			
7 評価に関しては、児童の取り組む様子を記録し、文章表記による形成的評価及び総括的評価を行う。			